練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第５回）「キャリア教育の推進」部会　要点録

開催日時		平成21年９月15日(火)　午後３時30分～午後５時00分
会　　場		練馬区役所本庁舎12階　教育委員会室
出席者	委　員	廣嶋憲一郎、石井友行、岡本昌子、安井実、野田恵威子、望月徳生（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	芝田智昭　指導主事

１　はじめに

事務局

本日の流れ、協議資料を用意した。一つは石井先生が作った「カリキュラムについて」。それぞれの項目を洗うと五つの視点になると考えている。あわせて、岡本先生が道徳の内容も入れてくれたものも用意している。二つ目が、「中間報告書に掲載する実践事例について」。この部会の冒頭で先生方に持ち寄っていただいた事例を中間報告書に掲載する。その体裁、様式等を私から提案し、これでよければ次回以降、この形式に沿ったもので持ち寄って検討する。

２　協議

委員

では、一つ目の「練馬区の実践におけるキャリア教育のカリキュラムについて」。「各学習期における目指す児童像」ということで、石井先生にもう一度ご説明いただきたい。

委員

前回まで一番右側にあったものを、一番左側にした。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、大きなくくりでまとめた。前回の資料と比べると、第Ⅰ期は低学年と中学年を合わせて入れるかたちにした。Ⅱ期も高学年と中学１年の重なる部分をくっつけるようなかたちでまとめた。Ⅲ期も中２、中３のものを一つにした。目指す児童像、上下関係に齟齬がないかどうかチェックしていただきたい。小野先生から出たイメージワードも併せて、目指す児童像と合っているかどうか見ていただきたい。

委員

大きな柱立ての１の（1）と（2）。子ども像と右側の表を併せて検討したい。Ⅰ期が、「学校生活に適応する」「身の回りの事象への関心を高める」「友達とのかかわりを深める」「自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する」「自分の持ち味を発揮し、役割を自覚する」。１年生から、４年生までをこのようにまとめた。５年、６年、中１にかけては、「自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する」「集団の中で自己を生かす」「自他の違いを尊重する」「社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる」。このあたりが「夢から希望へ」という標語とも合致する。Ⅲ期の標語が「やりがいを求めて」ということで、「自分の言動の影響を理解する」「社会の一員としての自覚を高め、義務と責任を果たす」「夢達成のための問題に

直面し将来設計達成のための努力を始める」とまとめた。これは柱立てとしては、自分自身に関すること、他人とのかかわり、それから将来、自分の持ち味を生かす、自分の役割という三つの柱立てでまとめているのか。

委員

明確に三つを意識したかというとそうでもないが、結果的に見るとそうなっている。

委員

右側のものが左側にきただけですごく見やすくなった。すごくすっきりしている。

委員

文章のかたちとしては、一番左側に目指す子ども像がきて、それをわかりやすく表現した標語があって、それを達成するためにこういう指導するということで、このかたちで進めていってよいか。それでは、この子ども像のところはどうか。

事務局

標語とも関連するが、Ⅱ期で「夢から希望へ」となっている。それでⅡ期の目指す子ども像に「夢や希望をふくらませる」という文言があって、Ⅲ期の最後の目指す子ども像に、「夢達成のために」とある。Ⅱ期である程度の見通しをもった希望に変わるという設定をするのであれば「希望をふくらませる」とか「自らの将来について希望を持つ」とかにして、Ⅲ期の子ども像も「夢達成のための問題に」ではなく、「自らの希望を達成するために努力を始める」みたいなほうが標語に合っていると思う。

委員

「夢」「希望」の私たちの概念はしっかりしておかなくては。夢が漠然としたもの、希望は職業選択も含めて見通しをもって、具体化したものととらえると、Ⅱ期は「自らの希望をふくらませる」。将来についての希望をふくらませる。Ⅲ期が、「希望を達成するための」とする。

委員

「希望から実現へ」。「やりがいを求めて」というよりも、そっちのほうがいい。

事務局

「希望への第一歩」のほうが、しっくりくる感じはする。

委員

成人ではないので、これから本当に大人になるための第一歩を踏み出すことを考えると、「希望への第一歩」という標語もよさが出てくる。

アドバイザー

「希望の実現に向けて」はどうか。

委員

そうすると第Ⅱ期が「夢から希望へ」、第Ⅲ期が「希望の実現に向けて」という標語。Ⅰ期は大丈夫か。「自分大好き・友達大好き・学校大好き」。

委員

そこは自己受容のうえに他者の受容があって、そして学校という集団の中で肯定的にみるイメージ。それがベースで自立心等が育っていく流れで考えた。そうするとⅡ期とⅢ期の言葉のつながりから、Ⅰ期も考えなきゃいけない。要するに、夢を持つみたいなところ。

委員

「子ども像」ということで、「子ども」あるいは「児童」「生徒」という言葉を使う場面が多々ある。統一していく必要はあるのか。

事務局

全体でも話が出ていて、小５、６と中１を第Ⅱ期でくくるので、「子ども」としておいた方がという話は出ている。最終的にこうするとなっていないので、こちらで預かり、すべてで統一する。

委員

自分はⅡ期の上から２番目の言葉がすごく気になる。「集団のなかで自己を生かす」という言い方は、中３のイメージ。「活かす」も「活」のイメージ。中１は自分を見つめるとか知る、他人のよさを知る、中２が集団で自分を伸ばしていく、貢献という言葉が実際には隠れている。３年で自分を活かすとか大きな集団を動かすという概念が中学校にあるので、小５、６のなごりという気がする。

委員

前に送っていただいた「キャリア教育の推進」。小学校の 29 ページ。自分の役割を果たすみたいな意味合い。だから中学校とは質的に違うかもしれない。これにこだわることはない。それをⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期でトータルに見て、あえて小中の枠組みを抜けるようなところで考えていく発想も今求められると思う。

事務局

Ⅰ期のなかに「自覚する」とある。自覚して、Ⅱ期でその役割を果たすとか。集団のなかで自分の役割を果たすみたいにしておく。Ⅱ期の最初の子ども像を二つに分けて、「集団のなかでの自分の役割を果たす」と、「人の役に立つ喜びを体得する」という二つに分けてしまうのもあると思う。

委員

自分の役割や責任を果たすことと、役割を果たすことでみんなのために役立つ喜びを体感す

るという、二つに分ける。「集団のなかで自分の役割を活かし」、「活力」の「活」。そちらをⅢ期に入れていく。

委員
　集団のなかで自己を活かすというのは、具体的に言えば、責任を果たすことと役立つ喜びを体得するということで押さえればよいか。

委員
　標語を挙げてしまいたい。Ⅰ期の標語を「夢」という文言を入れつつ、Ⅱ期、Ⅲ期と語呂合わせがよくなるようにという意見をいただいたので。

事務局
　私はこのままでもいいと思う。右側の活動事例にも「大好き」という言葉が出てきている。

委員
　自己肯定観をたっぷり育んでおくと、夢をもって学校生活を送っていけるというベースとして第Ⅰ期をとらえる。

委員
　自己肯定観だと、自分の所属集団を肯定的にとらえるのはすごく大事。だから、だんだん大きな集団になっていくイメージで作った。それが三つ目の「学校大好き」。これは当然、「地域大好き」「この町大好き」につながるという思いもある。もう一つ。第Ⅲ期の最初の言葉。「自分の言動の影響を理解する」というところが、中学校の「キャリア教育」の中にあったが、いかがなものか。

委員
　結局、「貢献」という言葉が隠れているから。

委員
　具体的に隠さないで、「貢献」という言葉を入れてしまっては変なのか。

委員
　文章にならない、きっと。中２は集団の中で自分を伸ばしていかせたい年代であり、その行動によって、何か地域や社会に貢献できるとなお達成感もあるということ。社会の一員として自覚を高められる機会、さらに客観的に自分を見つめることができる年代。でも、自分を見つめるのは、中１の感覚がすごく強い。自分を見つめることによって、他人のよさもわかるという年代が中１で、相手の個性のよさがわかる。中学校のキャリア教育のイメージもそれが根底にある気がする。

委員

「自分の言動の影響を理解し」、どうさせたいのか。

委員

集団に貢献できるような態度を育みたいということ。もともと中３に入っていた、円滑な人間関係をつくるという大きなものにしてしまう手もあると思う。そうすると広すぎか。それには当然、自分の言動の影響を理解しなければ、できないので。

委員

右側の小さな項目に一つひとつが対応してくれるといい。目指していく子ども像としてはいいが、大きすぎる気がする。たぶん中２って、上石のリトルティーチャー、野田先生、高橋先生が言ってくれた職場体験の柱。

委員

ここにある児童像は、Ⅰ期は小４で、第Ⅱ期は中１で、Ⅲ期では中３でできていればいい。というイメージで作った。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期でそこまで伸びればいいと。ただ、「自分の言動の影響を理解する」というのは、逆に私は狭すぎるのではないかと思った。

委員

先ほどの「役割」「自覚」「役割を果たす」「役立つ喜びを体得」という役割のことで、キーワードがⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期に出ている。役割というのは、この目指す児童像の後半に出てくるイメージがある。これを整理して後半に入れるといいと思う。Ⅱ期には役割の一番上に書かれている。ただ、右側のキーワードに相当する、強いインパクトがあるのがⅡ期は一番下。「ふくらませる」で終わりかはわからないが。

委員

Ⅲ期も今そうなっている。「希望の実現に向けて」ということで、一番下に。

委員

だから文章を整理していく方が、目指す子ども像がはっきりしてくるのかと。たとえばこれを、「①」「②」「③」と一期の中を分け、②のところは必ず役割のこととか、もうちょっと整理すると目指す児童像のステップアップの内容がわかってくると思う。Ⅰ期の①は学校生活の適用とか、周りの関心。②は役割で友達との関係も含めたもの。③は標語に対する目指す児童像だから、自分と友達、学校へというような中で。

委員

観点の順番をそろえたほうがいいってこと。

委員

もっと整理ができる気がした。あと、言葉に引っかかった。差がわからない。「自己」と「自

分」。

事務局

どちらを使うか、部会で限定してしまえばいい。今話を聞いて、視点に沿ってⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期、子どもの成長ぶりがわかれば、確かにわかりやすいものになると思った。たとえば、今話題に出たのが、①自分自身、②他者とのかかわり、③役割、責任、④標語にかかわる内容。標語にかかわる内容というのが、Ⅰ期であれば、肯定的に自分も周りもとらえ、集団もとらえることになり、Ⅱ期では将来への見通しになって、Ⅲ期であれば実現するための自分の取り組み、自分の努力が共通して入ると、子どもの成長の様子もわかっていいと思った。

委員

道徳の内容項目と似ていると思うが、１番が主として自分自身に関すること。２番が他者とのかかわり、３番が社会とのかかわり。役割分担、自分の責任を果たす。４番が自己肯定観、希望とか夢という標語に合わせて、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期で最終的に目指している子どもの姿を書いていくと出た。

委員

そうすると、「自分の言動の影響」はちょっと別の表現にしたほうがいいってこと。

アドバイザー

こういう資料がある。今言おうとした枠組みはだいたいそれに入る。１番上が、人間関係調整能力、自分と人との関係のライン。次が、夢とか希望とか将来の設計に関するライン。ここからとっていけば、安心。キャリア教育で求められる能力はと言ったときに、その四つの枠で区切っているから。ただ、町田でもこれを使って置き換えをしたが、結構大変だった。作ったあとで読んでもらえない可能性がある。これを意識してこの四つの枠で子ども像を作るか。

「自分大好き・友達大好き・学校大好き」もいいが、最近、希望学というのが話題になっている。夢とか希望が非常にない世の中になってきている。一番の元になるのは、やっぱり夢や希望が持てるか持てないかが、キャリア教育ではすごく大きいのではないか。標語のポイントで夢とか希望と出してきたのはすごくいい。小学校にも本当はあったほうがいい。夢を実現するために何をしたらいいのかがわからないまま、どこかで投げ出している部分がある感じがする。３番目の将来設計能力。これがキャリア教育をやるときにすごく重要じゃないか。将来の夢や希望をもたないとだめ。やっぱり小さいうちに夢をもたせたほうがいい気がする。

委員

そうするといただいた資料の将来設計能力に照らし合わせると、第Ⅰ期の終わり、小学校４年生の段階では将来の夢や希望をもたせたい。幼少期から小学校低学年にかけて自己肯定観を育んで、１／２成人式をするであろう４年生ぐらいでは将来に向けての夢を子どもたちにもたせたい。夢をもつという標語をみんなで考えたい。

委員

また、たたき台を作ってくる。

アドバイザー

「友達大好き」とか「学校大好き」は重要じゃない。「自分大好き」がすごく重要。自己肯定観という観点から「自分大好き」で、それが夢につながるのではないか。

委員

中学年ぐらいの年代は、やりたいことを進んでやっていくようなイメージの言葉がある気がする。それが夢や希望をもつことにつながるイメージ。

アドバイザー

小学校の低学年、中学年は体験的な学習が大事だというのは、やっぱりいろんな経験をしてそこで自分に合うものとかおもしろいものを感じ取らせることってすごくあると思う。あれは小３、４ぐらいまでにしかできない感じもする。

委員

そうすると夢をもつために、キーワードとしては、「自分の好きなことを見つけよう」みたいなことが大事かと思う。

アドバイザー

「自分大好き。好きなことを見つけよう」。こんな感じでいいかも。

委員

「得意なことを見つけよう」とか。

アドバイザー

「好きなこと」のほうがいい。広い。

委員

先ほど子ども像の観点を絞って、それに合わせて、①、②、③、④のようなかたちでやっていくのがいい。全部、四つに合わせなくていいと思うが、参考にして。

ところどころこのあたりの文言をいただきながら、みていくという感じで。それでは（1）（2）の「各活動の教育課程上の位置付け、単元名および内容」ということで、第Ⅰ期から。具体的な中身。重視する指導項目のなかの「お・あ・し・すの話」「１／２成人式をしよう」、「がっこうだいすき」が生活科、「この町大好き」が生活科、「小泉牧場体験学習」が総合。この「１／２成人式をしよう」は、総合的な学習の時間にかなり長いスパンでやっているところが結構あると思う。

委員

総合でいくか。自己の生き方を考えるあたり、これも特活ではずいぶん実践事例がある。学級活動としてある。扱い方は総合とは違ってもっと簡単。

アドバイザー

両方に入れることはできないのか。

事務局

「または」とかを入れる。学級活動と総合的な学習の時間と。実践事例はいかがか。

委員

石井先生から、小さい紙の２年生と５年生のところに、低学年と高学年の道徳、35 時間のうちの１時間のものを入れていくことがいいかどうか。

アドバイザー

道徳は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期に同じような中身は当然ある。私は入れていいと思うが、「練馬区の実践におけるキャリア教育のカリキュラム」となっている。つまりこれは、今までやった実践という意味。道徳だけじゃなくて、社会科はもっと入る。社会科は職業に関する学習がものすごく多いから、５年生が空いていても、産業学習をやるから、産業学習は全部ここに入ってしまう。そうすると簡単に埋まるが、それをやってしまうと、実践がなくてもいいとなる。将来に向けて、ある程度完成版のキャリア教育の練馬区の枠組みとして出すなら、当然、道徳は最優先で入れないといけない。そこの判断をどうするかという問題。結局、ほとんどが道徳、特活、総合、社会科が入りこむ。

だから道徳、特活、総合、教科という四つの枠で組むと、教科の中で入るのはほとんど社会科。ここはどちらかと言うと、特活、道徳、総合で今まで紹介できそうなものが入っているということで、それについての実践例をどなたかから借りてきて紹介で出せれば。たとえば生活科、総合、道徳、特活で各１個ぐらい。中間報告書の中身で、小中バランスよく出せれば、道徳を入れてもいいという感じはしている。だからカリキュラムという言葉がどうもじゃま。「キャリア教育の実践例」とか「練馬区の実践におけるキャリア教育のプラン」とかちょっと軽い言葉にしないと。カリキュラムとすると、指導計画そのものになってしまうから、当然教科も入らないといけない。カリキュラムなのに、なんであれがないのと言われるのがいやだ。

委員

だからこれを作りながらもいつも不安になる。

アドバイザー

だから「キャリア教育の推進プラン」とかにすると、気は楽だ。「カリキュラム」じゃないといけないのか。そうすれば、今回提案があったように道徳を二つ入れて、５年生のところに入る。そしてその実践事例も含めて道徳、特活、生活、総合から一事例ずつ、できれば小中の事例あるいは特別支援教育の事例を、バランスを取って実践事例を入れるというふうにすれば。

事務局
　これは担当の指導主事の会の中で提案してみる。

委員
　今のお話をうかがって、今書かれている実践プランに相当にするものが比較的、教員が指導をして、最終的に子どもの交流や地域交流をもつものの例。上のほうにこういった指導、教員の指導が入って、ゴールがある。だから今同じ四角で書かれているが、指導項目があって、大きなものが一つあって、実践が入ってくるといいのではないか。

委員
　とくに小学校のこれは一連の活動ではない。別々の束を寄せ集めた感じで、たまたま流れができている。今、安井先生がおっしゃったのは、教師の指導があって、その次にこういう外へ出ていく活動があってというのを構造的に見えるようにしたらどうかということか。

アドバイザー
　それはすごくいい。

委員
　実践プランだったらちょっとした指導があって、大きな枠が柱にあって、それの事例を今年度は紹介していくことができれば、わかりやすく入っていけるような気がした。たとえばリトルティーチャーとか福祉体験とか保育体験。

アドバイザー
　確かにカリキュラムの枠を作ってはいる。ただ、ここに入ってきている事例だけではカリキュラムにはなり得ない。

事務局
　前回の会で、ある程度本年度作るこの表の位置づけは、はっきりしていると思っている。基本的には先生たちがやった実践を整理したもの。来年度はカリキュラムと呼ばれるものに必要な、実践していないものも入れる。それは効果が高いもの、キャリア教育を推進するうえで必要なものを来年のものに入れていくスタンスだと思う。それで今年度、この実践プランに入れる内容としては、みんなで話し合っている標語が具体的に学習活動のレベルになっているような実践を入れる必要があると思う。いま足りないと思うのが、Ｉ期の標語が現段階では、「好きなことを見つけよう」という内容。だからこの実践例がいま現在ここにない。

委員
　３年生が総合的な学習で、自分の好きなアートフラワーとか囲碁とか「名人に学ぼう」という単元はやっている。自分の好きなことを見つけて伸ばしていこうという実践例もある。

事務局

だから道徳の視点から、特活の視点から必要なものを入れるっていうやり方もあるが、今年度については、標語をみんなで話し合って入れていく。その標語が具体的に見えるような活動はほかにないか、おまけに実践しているものはないかという考え方のほうがいい。

アドバイザー

道徳は来年の課題にして、道徳だけじゃなくほかの要素もあるから、これはもう削って。３年生あたりに今のようなものを入れたほうがいいかもしれない。５年生でもう一つ何か「夢から希望へ」ということに関連して何か入れられれば。そしたら今年はもういい感じがする。

委員

道徳はなくして「名人に学ぼう」という総合的な学習の単元をここに入れ込む。５、６年の単元で、手塚治虫のものを題材にしたものは、うちの学校は道徳の公開講座では５年生の「夢をもちましょう」みたいなところで出てくる。それは非常によく使われた。

委員

なんか、道徳で地域に根ざしたような題材のものは何かないか。練馬ならではの。わざとらしいかもしれないが。

委員

夢とか希望に。私のほうで「名人に学ぼう」をここに入れて、道徳、手塚治虫さんのものも入れてメールで送る。キッザニアは特別支援学級で行かれたということだが、小学校では行かない。

委員

お金もあるし、時間の問題もあるし。

委員

何か勤労観、職業観のあたりで社会科見学みたいなところ。製造工場とか行かないのか。

委員

製造工場は行く。ねらい的にはちょっと違う。中身をもう一度練り直していくということで、あと「位置付け、単元名および内容」は、３年生と５年生のあたりに少し手を加える。

４番の「特別支援学級における取組み」については先生がいないので、次回に。

「全学習期を通じて学習する内容」。下向き矢印のかたちの五つ。「キャリア教育の観点から五つの内容を精査する」「目的か、内容か、活動か　そのレベルを合わせる必要はあるか」。「目的か、内容か、活動か」。

委員

目的、内容、それと混在している。

委員

「全学習期」というと、上から下までいかないといけないような題目だが、途中で切れているのが右側に二つあるが。

委員

これは全学習期を本当に９年間とすれば、右側の二つは削除しないとだめだ。

委員

中学校の縦割り班活動は、「特別活動における人間関係等の育成」に入る。特活だ。

アドバイザー

「全学習期を通じて学習する内容」というのはどうして入れることにしたのか。

事務局

こちらから提案したフォーマットに入っていた。これはそれぞれⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期で分けるが、キャリア教育を９年間指導する際に、やはり繰り返し継続して指導する内容があるのではないかということで、四部会それぞれにこれが課せられている。たとえば、今お示しいただいた人間関係形成能力とか情報活用能力とかって四つの力だったら通せる。

アドバイザー

キャリア教育の視点。ずっと文科省から提案されている視点。東京都もこれにならっている。

そうした方が簡単なので、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力と４本、そうするか。それぞれの説明はそのままそっくり使えば。

事務局

これを入れると、文科省からの話からも外れないし、いいと思う。

アドバイザー

実践の方は練馬区の独自的なプランが出て、全学習期を通してやるものは、日本全国に示されているものと共通の土俵はもっている、というシグナルになる。そのほうが安心する。

委員

一番右側の「全学習期を通じて学習する内容」をこの文科省から出ている、四つの能力を伸ばしていく。

委員

どれだけ文章が入れられるか、まず「人間関係形成能力」と入れ、どういう説明を入れるかまたたたき台を作ってみる。

委員

これだったら、右側の二つをのぞくと左から「知・徳・体」と思った。個に応じた学習、９年間の学びの連続みたいなことが言葉に隠れているのかと思っていた。

事務局

キャリアの独自性を出すには、四つの能力を出して。領域説明もこの表の中にあるので、これをそのまま入れてもいいと思う。

委員

では、この四つの能力とその領域説明を石井先生に入れていただくということで。

では、２番、「中間報告書に掲載する実践事例について」。

事務局

では２番について。ここに書いてあるような項目で協議を思っていた。それで内容は、これまで持ち寄っていただいたところから考えていたが、今の話し合いを受けて、ちょっとそれも変更がありうる。様式についてはA4、１ページ。40×40 が基本だが、そこに表、図、写真が入る場合など、ある程度、自由。分担、１事例で１ページ、それを６人の方にお願いしたいと思っている。小学校事例、岡本先生に開二の事例、根本先生に石神井の生活科の事例と思ったが、岡本先生が開二の「名人」になり、そうすると根本先生にはⅡ期の５、６年のどこかの単元を書いてもらうことになるのかと思い、話を聞いていた。

中学校は野田先生、高橋先生、それぞれ現在もってきていただいているのが職場体験の事例なので、そのままお願いすることになると思う。特別支援学級は、望月先生に職場体験の事例をそのまま書いていただく。飯塚先生はキッザニア体験についてだが、特定の施設名でもあるので表現を変えなくてはいけないと考えている。

あと構成だが、A4、１ページなので、なるべく端的に事例名、実施学年、指導時数、ねらいを書いて、本事例とキャリア教育との関連とつなげていきたい。その関連の中で、今整理している表の中での単元の位置付けとか、その単元で培いたいキャリア教育にかかわる子どもたちの力とか、そういったところを書いていただきたい。これはあまりしばりをかけないようにしている。５番の概要は、さらにしばりをかけずに、指導計画、状況がわかる資料、写真もあり。というようにまとめていただければ。今日は分担までは確定できないので、こんな柱立てでよいかどうかまでお願いできればと思う。

委員

これは次回、中身を確定して、次回分担することでいいか。私は「名人」ので全然構わないが、５年生の道徳を担当すれば、生活科の大家である根本先生がすごく得意の生活科でまとめられるので。

事務局

次回、調整ということで。